

赤文字で記入してある箇所を例や注釈に従い記入してください

取組内容を確認し、該当する項目に□をしてください

(参考様式第1-7号)生産記録

(冬期湛水管理) 有機質肥料施用、畦補強等実施 有機質肥料施用、畦補強等未実施 有機質肥料未施用、畦補強等実施 有機質肥料未施用、畦補強等未実施
(注) 該当する項目の□に、■または✓を入れること。)

組織名	〇〇エコファーム
氏名	〇〇 〇〇

ほ場名	実施面積	作物名(5割低減)
キスキ1 キスキ2	50a	水稻(コシヒカリ)

- 湛水開始時期と排水開始時期を記入してください
- 未実施の作業の場合は、「見込み」を備考に記入してください
- 湛水期間が2か月以上であることを確認してください
※〇月上旬や〇〇頃の記載は不可です

1 冬期湛水管理

(1) 主な作業

作業名	措置方法 (措置番号を記載)	実施時期	備考
取水措置	②	令和4年11月15日	
漏水防止措置	①	令和4年10月30日	
定期的な水位管理	定期的なほ場巡回による点検	5日ごと	
生きもの調査			

(3) 有機質肥料の施用

資材等の名称	使用時期	使用量kg	購入金額
米ぬか	令和4年11月5日	50	0 円
くず大豆	令和4年11月5日	50	0 円
牛糞堆肥	令和4年11月5日	1000	3,000 円
合 計			3,000 円

(注) 購入金額の欄には、10a当たりの金額を記載すること。

(措置番号)

取水措置	漏水防止措置
① 地下水をくみあげ	① 畦塗り
② 排水路の水をくみ上げ	② 畦畔シートの設置
③ 水権利のある農業用水からの取水	③ 定期的なほ場巡回による 畦畔等の補修
④ その他(具体的に記載すること)	④ プラスチック製の畦畔カバー
	⑤ コンクリートブロック
	⑥ その他(具体的に記載すること)

(2) 湛水期間

	実施時期	備考
湛水開始時期	R6.11.1	
排水開始時期	R7.3.1	見込み
湛水期間	約3ヶ月半	

有機質肥料施用可算の場合は、こちらに以下の内容を記入してください

- 投入した有機質肥の名称、使用時期、使用量、購入金額を記入してください

2 5割低減の取組

(1) 主な作業

作業名	実施時期	備考
播種	令和4年4月10日	
定植	令和4年5月10日	
収穫(終了日)	令和4年9月10日	

(2) 使用肥料 (1)(3)の有機質肥料以外)

資材等の名称	化学肥料 窒素成分 の割合(%)	使用時期	使用量(kg/10a)	うち化学 肥料窒素 成分量 (kgN/10a) (A)	慣行の5 割低減の 水準 (kgN/10a) (B)	備考
有機入り〇〇	10.0	令和4年5月10日	15	1.5		
牛糞肥料	-	令和4年7月10日	16	-		
ここでは、使用された化学肥料が基準値以下であるか確認します						
・施用したすべて肥料の正式名称及び窒素成分の割合、使用時期、使用量を記載してください						
合 計				1.5	2.75	

(注1) 化学肥料窒素成分を含まない有機質肥料も含めて記入すること。

(注2) (A)の合計 \leq (B)の値 となっているか確認すること。

窒素成分量の計算の仕方

窒素成分の割合 \times 使用量

例)

$$15 \text{ kg} / 10 \text{ a} \times 10\% = 1.5 \text{ kg N} / 1$$

(3) 使用農薬

農薬名 (剤型等、商品名)	使用時期	化学合成農薍 成分回数 (C)	慣行の5割低減 の水準 (成分回数) (D)	備考
〇〇粒剤	令和4年5月10日	4		
△△ジャンボ	令和4年5月17日	3		
◇◇粒剤	令和4年6月10日	2		
■■液剤	令和4年8月1日	1		
合 計		10	10	

(注1) フェロモン剤、生物農薍等カウントしない農薍も含めて記入すること。

(注2) (C)の合計 \leq (D)の値 となっているか確認すること。

ここでは、使用された農薍が基準値以下であるか確認します

- 施用したすべての農薍の正式名称及び使用時期、成分回数を記載してください

成分回数の計算の仕方

農薍が含む有効成分の数 \times 敷布回数

例)

- 殺虫剤 (2成分) \times 敷布1回 = 2
- 殺菌剤 (1成分) \times 敷布1回 = 1
- 殺菌剤 (2成分) \times 敷布1回 = 2
- 殺虫剤 (2成分) \times 敷布1回 = 2

3 保管書類

■漏水防止の措置状況がわかる写真(新たに措置を行った場合)

■有機質肥料の購入伝票等(※)

□生きもの調査の結果が記載された書類

□出荷・販売伝票(10a未満の取組の場合)

※ 購入した有機質資材と無償の有機質資材を原料とした自給肥料の場合は、原料の種類・量・購入金額、製造期間、製造場所、製造した肥料の量等を記載した書類を保管すること。

(注) 保管してある書類名の□に、■または✓を入れること。

送付資料の「特別栽培農産物に係る表示ガイドラインに基づく慣行レベル一覧表」を参考に農薍使用回数、化学農薍窒素成分量を確認し、ご提出ください